

科目名		授業形態	担当教員名	
高次脳機能障害作業療法		講義	中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
血管障害や頭部外傷など、脳の病変や損傷によって引き起こされる高次脳機能障害は、さまざまなADLの阻害要因となることが知られており、作業療法目標の設定や治療計画立案時に考慮すべき重要な要素の一つである。この授業では作業療法士として臨床に必要な知識である高次脳機能障害の定義、症状と発現メカニズム、症状および障害の見方とその評価および具体的な治療方法を学ぶ。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害の各症状の定義を説明することができる</li> <li>2. 高次脳機能障害の各症状の発現メカニズムを説明することができる</li> <li>3. 作業療法における高次脳機能障害の障害別評価方法を実践することができる</li> <li>4. 高次脳機能障害に対する作業療法介入を症状別に説明することができる</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	高次脳機能障害の概略			
2	意識と注意の障害			
3	失語症とコミュニケーション障害			
4	失行とその評価			
5	失認とその評価			
6	記憶障害とその評価			
7	前頭葉損傷			
8	高次脳機能障害における作業療法評価 1			
9	高次脳機能障害における作業療法評価 2			
10	高次脳機能障害の簡易評価バッテリー実践 1			
11	高次脳機能障害の簡易評価バッテリー実践 2			
12	高次脳機能障害の評価バッテリーの解釈			
13	高次脳機能障害に対する作業療法介入 1			
14	高次脳機能障害に対する作業療法介入 2			
15	まとめ			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	上記の授業の到達目標がどの程度達成できたかで評価する。		
レポート				
小テスト				
平常点	10%	授業態度や出席で評価する。		
その他	10%	後半の簡易バッテリーの実践で行う小グループでの発表会の内容で評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業療法全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害	渕雅子 編集		日本作業療法協会監修	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				